

Vol.1: 今だからこそ挑戦したい「オンラインディスカッション」

『サンカク通信』は、リクルートキャリアが提供する、会社を越えて企業に参画できるサービス『サンカク』(<https://sankak.jp>)に特化した活動レポートです。『サンカク』が提供する社会人インターンシップやスポットディスカッションから見えるトレンドや副業の実態など、参加者の声と合わせてご報告。今後もタイムリーに副業・社会人インターンシップなどの情報を発信します。

『サンカク』の社会人インターンシップとは

『サンカク』が提供する社会人インターンシップは、大手企業からベンチャー企業まで企業規模や業種に関わらず様々な企業が事業課題に関するテーマを掲げ、それらに興味を持ったユーザーがディスカッションを重ねてアイデアや解決策を提示していくサービスです。キャリアアップを目指すディスカッション参加者は、参加後に企業から副業や転職のオファーが届く可能性もあります。2020年5月時点で、登録ユーザー数は累計5.2万人、社会人インターンシップのサービスをご利用いただいた企業は延べ約280社になります。

社会人インターンシップが支持される背景として、近年では働く個人の成長や、より良いキャリアを実現するための副業に対する興味の高まりから、セミナーや勉強会など、社外での成長機会獲得へのニーズが増加していることがあげられます。また、終身雇用の概念も大きく変化しており、変化の激しい社会への対応人材を育成する専門職大学等の設立なども話題になりましたが、社会人になってもなお知識・能力を磨き続けるための「リカレント教育」の重要性も高まっています。社内外での活動においてスキルを磨くことで働く個人が成長していく。この姿勢こそが、ウィズコロナのニューノーマル時代を生き抜く社会に必要なのかもしれません。

『サンカク』の現場から

Report from Sankak

変わる“大人の”インターンシップ

オンラインディスカッションに「新しい成長モデル」の創出を

株式会社リクルートキャリア 事業推進室 古賀 敏幹

新型コロナウイルス感染症の影響により、様々なリアルイベントが延期や中止となっています。2020年4月16日に政府により全国に発令された緊急事態宣言は解除されましたが、以前のような「日常」に戻るの難しいのが現状ではないでしょうか。

これまでリアルな場、かつ首都圏を中心に開催していた『サンカク』の社会人インターンシップも例外ではなく、2月末よりリアルでの開催は軒並み中止となりました。この環境下においても、講演やセミナーといった双方向のコミュニケーションが発生しない参加型イベントについては、オンライン開催にスムーズに移行しています。一方で、「ワークショップ」「ミートアップ」「ハッカソン」といった双方向のコミュニケーションが求

められる参加型イベントについては、なかなか開催が広がっていません。何故でしょうか？

「ハードルが高い」と思われがちなオンラインでのディスカッション

『サンカク』が提供している社会人インターンシップなど、議論を交わしながら新しいアイデアを導き出す「参加型イベント」は、参加者同士の双方向のコミュニケーションが求められます。オンライン上での双方向のコミュニケーション、つまりディスカッションは、参加者が同時に発言をしたり、言葉を重ねたりすることが機能上難しいことがあるかと思えます。また、相槌をうったり、表情を確認したりする非言語コミュニケーションが取りづらいことも重なり、ディスカッションのオンライン化のハードルは高いと感じられているようです。しかしながら、新たな領域に挑戦する、自己成長の機会を提供し続ける『サンカク』では、オンラインでのコミュニケーション領域における論文等を参考に、この時期だからこそ、オンラインでの参加型イベントの開催を実現。オンラインでも満足度の高い体験ができることが分かってきました。

新たな生活様式を取り入れながらも「自己成長の場」を諦めない

3月末日に実施されたオンラインディスカッションには、ご応募いただいた80名近くの方の中から19名の方が参加。IT業界、製造業、不動産・金融業、製薬業界、広告業界…など幅広い業界の知見が集まりました。テーマは「企業の事業変革期において、どんな組織づくり、人材育成を行うべきか」。13時～17時というオンラインでの開催としては異例の長さでしたが、集中が途切れることなく活発な議論が交わされました。

オンラインディスカッションにおいて一番重要な工程は、事前のファシリテーション設計です。活発な議論を誘発できるよう、この日は「意見が対立」するような仕掛けを施し挑みました。結果、リアルイベント開催時の満足度は5段階評価で平均して4.3ですが、今回は4.4と、オフラインでの開催と同様満足度も高く、「今後もオンライン開催での社会人インターンシップに参加したいと強く思う」と答えた方は58.3%と半数を超える結果に（※1）。企業からも、「オンラインであり、かつ初対面ということで参加者としてしっかりとコミュニケーションが取れるのか不安だったが申し分なくできて楽しかった」「ワークシートがあったため一人ひとりの考え方が分かった」など、オンラインでの開催に対し高評価をいただきました。参加者からは、オンラインだからこそ「議論に冷静に向き合える」という意見や、「場所と時間にとらわれずディスカッションできるのがいい」という声が寄せられました。

オンラインディスカッションの課題は「コミュニケーションの活性化」

満足度が高い一方で、課題も見えてきています。それは、参加者同士のコミュニケーションの活性化です。非言語コミュニケーションがない分、受け身になってしまう瞬間があるとの声も。自分自身の表現ができなかったり（25%）、自分の居場所を感じることができなかったり（16.7%）という不安の声は出ています（※1）。ディスカッション中、ビデオ画面はONにしてお互いの表情は確認できる状態にしたり、音声に加え、チャットやオンライン上で利用者が同時に編集することができるWebアプリケーションツールなどを活用したりするなど工夫をしていますが、まだまだ検討は必要です。今後も実践を繰り返しながらより良いディスカッションの方向へブラッシュアップしていきます。

冒頭でお伝えした通り、以前のようなリアルイベントの開催は難しいと思います。「新しい生活様式」がスタンダードになっていくこの環境下だからこそ、オンラインディスカッションの経験を重ね、オンラインでの参加型イベントを「日常化」していきたいと思えます。そうすることで、新型コロナウイルス禍における対策という側面だけでなく、これまで参加が難しかった地方の方々や、海外からの参加もできるようになるなど、より

多くの方の自己成長の機会が広がっていくことでしょう。

参加者の声（実施後のアンケートより抜粋）：

「一定距離があることで、議論に冷静に向き合える。オフラインで会いたいという気持ちが高まりました。」	(人事育成業界 20代男性)
「ひとりひとりの話が聞きやすかった。」	(IT系代理店営業 30代男性)
「物理的な距離という障壁は突破できるので、地方の人なども今後格差なくこういったイベントに参加できるようになるのでは?と思えた。」	(デジタルマーケティングプランナー 20代女性)
「オンラインディスカッションだと、住まいや時間の制限を受けにくいため、より多様な方々と交流することができ、刺激の幅が広がると感じました。」	(不動産・金融業界 30代男性)
「実際に集まるよりも全員が等しく発言していた気がしました。」	(製薬業界営業 30代女性)
「このような状況下でも場所と時間問わずディスカッションできるのが良い。」	(IT業界営業 30代男性)



3月29日開催のオンライン社会人インターンシップの様子

※1：3月29日開催のイベントにおける参加者への簡易アンケート調査（リクルートキャリア社外広報）

『サンカク』に副業社員として携わる注目の方々にフューチャーしてご紹介します。

第1回目は、2017年から『サンカク』に携わる本間 和城さん。現在の関わりだけでなく、『サンカク』に参加したきっかけや、そこから得られた経験など熱く語っていただきました。

- お名前： 本間 和城さん (30歳)
- 本業： Creww 株式会社 プロダクトマネージャー
- 居住地： 東京都在住
- 『サンカク』での活動開始時期：2017年6月



『サンカク』からインタビュー

現在の『サンカク』への関わり方を教えてください

クライアントの人材要件ヒアリングから、『サンカク』イベントのプランニング、参加者の集客管理、当日の司会進行、イベント後のオフアールまでイベントに関わる全てを担当しています。イベントによっては、『サンカク』パートナーの方とバディを組みながら2人でイベントの運用を行うこともあります。また最近では『サンカク』パートナーのコミュニティづくりにも注力しており、コミュニティの活性化や、初めて参加する方のキックオフ設計なども行っています。平日夜と休日を中心に活動しており、平均週0.5～1日程度の稼働です。

『サンカク』へ参加したきっかけ・理由を教えてください

もともと副業やキャリアアップなどに興味があり、イベントの参加者として『サンカク』を利用していました。あるイベントの参加後に「パートナー制度を立ち上げるからジョインしないか」とお声がけいただき、今のよう形で参加することとなりました。今まで知らなかった業界や職域、ビジネス構造などを、イベント企画を通じて疑似体験できることがとても魅力的だったため、パートナーとして参加を決めました。

『サンカク』に携わってココが変わった！というところは？

多くのイベントに関わることで多様な業界・職域の知識やワークショップ設計のスキルが身につきましたが、一番は「より心が健康になった」と思います。普段の仕事では決して出会えない仲間、本業以外でも活躍できている・必要とされているという自負、自身のキャリアビジョンがイベント運営を通して広がる感覚。様々なものを得ることにより、自分自身の未来がとても明るく感じられ、将来のことでネガティブに悩むことが減ったこと、それが一番変わったことだと思います。

あなたにとって『サンカク』に参加することで「実現できること」とは？

「自分に対して実現できること」は、「ココが変わった」と近いですが、自分の将来の仕事をより深く・より

広く見通せるようになりました。「社会に対して実現できること」は、微力ながら「採用のミスマッチ」が少しでも減らせたのではないかと考えています。面接・面談のようにお互いのことを知る目的のイベントではなく、「両者で同じ課題に取り組む」という共通目的のもとお互いの理解が深まるイベントを自身で運営できたことで、何人/何社かのミスマッチ課題が解消されたと思っています。

最後に、『サンカク』に限らず、社会人インターンシップへの参加を検討されている方にメッセージをお願いします

社会人インターンシップを経験することで、参加前では到底想定できていなかった様々なものが得られました。それは報酬の有無にかかわらず、経験・仲間・自信・自己把握など、本当に様々なものです。そしてその"得られたもの"は、今の自分の心の豊かさにつながり、将来を不安に思う気持ちが減ることにもつながりました。決して、全社会人がインターンシップで素敵なモノを得られるとは限らないかもしれませんが、しかし、転職とは違い「何かを諦めて新しい何かを取りに行く」という事でもないのが、インターンシップの良さだと思います。自分なりに使える時間で、自分なりに使えるスキルや経験で、まずは試してみれば、思ってもみなかったモノが得られるかもしれないなあと感じています。

●「サンカク副業社員」とは

『サンカク』会員の中で、『サンカク』のビジョン・ミッションに共感し、単なるユーザーとしてだけでなく運営の主体者として関わりたいと希望された方を対象に、副業という形式で『サンカク』の運営に関わることができる仕組みです。主に『サンカク』のメインコンテンツである社会人インターンシップのプログラムについて、リクルートキャリアの社員および『サンカク』を導入する企業と協働しながら実現する役割を担っていただいています。

『サンカク』な「言葉解説」

Sankak's Highlight & Explanation

株式会社リクルートキャリア 事業推進室 藤井 里江

副業・社会人インターンシップに関する言葉を『サンカク』が解説をするコーナーです。このコーナーは、『サンカク』において、商品企画を担当しているプロダクトマネージャーの藤井がお届けします。

初回の言葉は、「社会人インターンシップ」です。

今の会社での業務の幅に対する不安を抱えている方や、将来転職を考えているため他社のことを知りたい方、自分の仕事や能力を見つめなおす機会を探している方など、悩みを抱えている方は多くいらっしゃいます。社会人になってしばらく経験を積んでいった時、今の仕事をしたまま、別の「気になる企業」「気になるサービス」に、もしも自分が参加したらどうなるか。そんな体験ができるのが「社会人インターンシップ」です。学生時代のインターンシップと同様、「就業体験」をすることができます。具体的には、企業が提示する事業課題などに対し、新しいアイデアで解決方法を導き出すなど、実在の企業の挑戦へ貢献することができます。参加者は、本業でのスキルを発揮したり、あえて本業とは異なり今後関わりたい領域に挑戦したりするなど、自らの目的に合わせて参加することが可能です。様々なバックグラウンドの方とディスカッションする事で刺激を受けたり、キャリアに対して新たな気づきを得ることができます。

次回のオンライン開催の「社会人インターンシップ」は？

【ベルフェイス株式会社】 # ウェブサービス # 営業戦略 # マーケティング

タイトル	セールス領域をテクノロジーで革新せよ！ オンライン商談がもたらす変革にサンカク！
日時	2020年6月8日（月）19：15 受付開始 19：30～22：30 （※懇親会の時間を含む）
エントリー〆切	2020年6月5日（金）12：00 予定
イベントの詳細	https://sankak.jp/event/dive2005bf

※体験取材をお受けしております。ご興味のある方はお問い合わせください。

※今後の開催スケジュールの詳細は『サンカク』HPの「社会人のインターンシップ一覧」をご確認ください：

<https://sankak.jp/event>

兼業・副業に対する企業・個人の調査を発表しています

当社では、「兼業・副業に対する意識調査」を、企業、個人、それぞれに実施しています。最新の企業側の調査によると、社員への兼業・副業について認めている企業（推進+容認）は30.9%と、2018年度調査の28.8%より2.1ポイント上昇。企業における副業を取り巻く環境も少しずつ変化していることが見えてきました。兼業・副業を認めている企業のうち、3割以上は「本業に還元できている」と感じていることが分かっており、兼業・副業の効果について実感している企業の実態が明らかになりました。個人側の意識調査も合わせてご確認ください。

- 兼業・副業に対する企業の意識調査（2019）：
<https://www.recruitcareer.co.jp/news/pressrelease/2020/200324-01/>
- 兼業・副業に対する個人の意識調査（2019）：
<https://www.recruitcareer.co.jp/news/pressrelease/2019/190711-01/>